

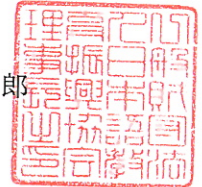
日教振第217号  
令和2年2月28日

学校法人服部学園

理事長 服部良男 殿

一般財団法人日本語教育振興協会

理事長 佐藤次郎



## 日本語教育機関の教育活動評価結果について（お知らせ）

標記について、貴日本語教育機関（YAMASA言語文化学院）においては、別添認定書のとおり認定されましたのでお知らせします。

詳細は、別紙教育活動評価結果をご覧ください。

ついては、今後の貴機関の運営に当たっては、更なる日本語教育の質的水準の向上や教育活動の改善に努めてください。

なお、認定の有効期間中であっても貴機関が評価基準に適合しなくなった場合等においては、その認定を取り消すことがありますので念のため申し添えます。

### 記

#### 1. 一般事項について

各種関係法令を遵守することはもとより、設置者として社会的非難を受けることのないように努めること。

## 【達成状況】

学校の定めた理念・ミッションに沿った学校運営が行われている。「学習者はおお客様である」というポリシーをもって、教師と学習者が一方的な力関係に陥らず、人として尊敬しあい対等な関係性を意識した教育・指導が徹底されている。教員「行動基準」を策定し、あるべき姿を可視化していることで、こうした理念が具体的な教育活動につながっている。

入学者募集に関して、学校ホームページ（募集要項を含む。）を多言語化し、多言語対応可能な職員を配置している。入学希望者や関係者からの直接問い合わせを経て、応募・入学に至る形が大半となっている。エージェントを介さず、入学希望者等とのメールなど時間をかけた丹念なコミュニケーションによって、正確な学校情報を伝えると同時に、入学希望者の適性等を把握でき、結果的に齟齬やトラブルの発生防止につながっている。一方、エージェントを介しての入学者も1割程度あり、エージェントに対する入学者へのアンケートや、留学フェア等での直接会談を通して、エージェントの実態を把握している。

このような募集方法により、多様な学習者を受け入れているため、1教室は、最大15人までとし、多様なニーズを丁寧に拾い上げている。1コマ1コマの授業記録等でもしっかりした引き継ぎが行われている。卒業後、日本で進学する者は少なく、6割以上が帰国する。そのため、アカデミックジャパニーズ志向は弱く、4技能の総合的な育成を前提とした授業内容に加え、学習者個々の希望にあわせた個別指導も行っている。こうした個々のニーズを的確に把握し、細やかに応える体制が整っている点が高く評価できる。

教員に対する自己成長を促す取り組みも評価できる。他機関が催す研修への参加だけでなく、年1回自校が独自にセミナーを実施し、そのテーマ選びから教員が主体的に参画している。また、教員相互の授業見学も最低年2回実施している。この見学は、見学者が見学した授業に対してコメントするのではなく、見学した授業と比較して自身の授業がどうであるかを振り返るものである。自身の授業を客観化するのには良い方法である。

学校の広大な敷地内に、古民家が移築され、地域住民の学びの場、学習者と地域住民との交流の場となっているほか、和室、フィットネスジム、調理スペース、カフェなどが点在し、学習者の利用可能な充実した施設を備えている。

## 【課題・改善要望等】

学校運営、入学者の募集・選考、受け入れ後の教育と安全管理、教員研修と評価など、高い水準にある。何事も完成度が高くなるほど、改善点を探すのが難しくなるものである。すでに整えられたシステムを定期的に見直す仕組みとともに、見直しの観点自体をも見直せるような取り組みを継続していただきたい。